

授業科目名	助産学概論(2300261)		
時間割名	助産学概論(41207)		
時間割担当	服部 律子		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	木・1		

授業の目標・概要

この科目では助産の概念や定義、助産制度の変遷、助産師活動の展開など、助産を实践するうえでの基盤となる概念や知識を学び、自分自身の助産観を見出すとともに、今後の助産師としての活動を展望します。

学習の到達目標

1. 助産の概念や定義について説明できる。
2. 助産や母子保健の変遷を踏まえ、助産師の役割について考察できる。
3. 助産過程の展開について説明できる。
4. 将来目指す助産師像や今後の助産活動について考えることができる。

授業方法・形式

講義・グループディスカッション

授業計画

- 第1回 助産の概念
助産の起源、助産の定義、助産の意義・本質
- 第2回 助産実践の実際
助産診断、助産援助
- 第3回 助産実践の実際
診察技術、援助技術
- 第4回 助産に関する概念
リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療
- 第5回 わが国における助産師の定義と業務
関連法規、助産師の業務と責務
- 第6回 諸外国の助産
諸外国の助産師制度、助産師活動、ICM
- 第7回 助産師と教育
わが国の教育、諸外国の教育
- 第8回 出産の変遷と助産1
わが国の助産の変遷
- 第9回 出産の変遷と助産2
諸外国における助産の変遷
- 第10回 わが国の母子保健の動向
母子保健の歴史、諸制度の変遷
- 第11回 助産を支える理論
助産実践を支える理論、対象理解の理論
- 第12回 助産学に関連する学問域と助産学の探求
産科学、社会学、人類学、助産学研究
- 第13回 助産師と倫理1
生命倫理
- 第14回 助産師と倫理2
職業倫理、倫理綱領
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

最終レポート50%、授業期間中の課題40%、グループディスカッションへの参加態度10%

準備学習・復習及び授業時間外の課題

各授業で扱うテーマについて、事前に情報を集めて授業に出席すること。
各授業の後には学んだ内容やその中で自分が感じたり考えたことを整理しておきましょう。

履修上のアドバイス及び留意点

この科目は、助産を实践するうえでの基本となる科目です。科目で扱う様々なテーマについて、自らが考えること、感じること、そして、他の学生と話し合うことで多様な価値観や考え方に触れ、自らの助産観を構築していくよう心がけてください。

教材・教科書

我部山キヨ子編、助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論、医学書院

参考書

必要に応じて適宜提示します。